

秋田港港湾計画（改訂）

1 秋田港への要請

秋田港は古くは土崎^{つちぎみなと}湊と称し、県内の最大河川である雄物川^{おものがわ}の河口に発達した港である。慶長7年（1602年）関ヶ原の戦い以後、佐竹20万石の米・木材・鉱産物等の集散地として賑わい、日本海北部の要港として栄えた。近年に入り、昭和26年に重要港湾に指定された。

今日の秋田港は、臨海部に立地している木材・紙加工関連や非鉄金属工業等の地域産業の安定的な生産活動を支える物流拠点として、また、エネルギー供給拠点として地域経済を牽引する役割を担っている。

今後我が国製造業の競争力を強化するためには、国境を越えた部品・製品等の調達がなされる水平分業の進展を背景に、中国を中心とした対岸諸国等の生産地と迅速かつ低コストで、確実な輸送手段が備わっていることが不可欠である。秋田港はこれらの対岸諸国と地理的に近接しており、背後地域における交通ネットワークも在来の国道7号、13号に加え、日本海沿岸東北自動車道及び東北横断自動車道等の基幹的な交通ネットワークが充実してきているため、首都圏や東北地方の主要都市圏との結びつきが強化されつつある。こうしたことから、秋田港は日本海側国土軸と秋田・岩手地域連携軸の結節点にあるポテンシャルを活かして、「東北地域の環日本海交流圏の中核を担う港湾」として、時代のニーズを適切に捉えた物流、交流、安全等の機能発展を図っていくことが期待されている。

物流機能を効果的に発揮させる観点では、分散しているコンテナ取扱施設の集約や適切な規模のフェリーターミナルの確保による貨物取扱能力の強化や港湾と背後地域の良好なアクセスを確保するための臨港交通体系の整備、さらにコンテナ船やフェリー等定期船の定時性を確保するための防波堤の早期整備等の諸対策が必要である。

地域経済の活性化に資する港づくりという観点では、企業立地需要の変化に伴う飯島地区^{いいじまちく}の未利用地等の既存ストックを活用しながら、新規産業の導入に向けて企業の要請に柔軟に対応できる土地利用計画の策定と、地域の産業を支える物流機能を確保することが必要である。

安全な港づくりという観点では、背後に県内人口の約3割を有する秋田市を抱え、大規模地震発生時における緊急物資の輸送や地域住民の安全確保を目的とした防災機能の強化として耐震強化岸壁の整備が必要である。

みなとまちづくりの観点では、地域に賑わいと活力を創出するため、国内外からの観光客を迎えるのに相応しい交流拠点の創出が要請されているほか、市民に開かれた港づくりのための水際線の開放及び緑地・広場等の整備が望まれている。また、現在公共水域に散在するプレジャーボートの適正な保管が望まれている。

2 計画の基本方針

北東北の産業活動を支えるとともに、地域経済や市民生活の安定・向上に貢献するため、物流・産業・安全・環境・文化・交流の6つの機能が融合した活気あるみなとを実現する。そのために、「東北地域の環日本海交流のゲートウェイ」を目指し、平成30年代前半を目標年次として、4つの機能別に以下の方針を定め、港湾計画を改訂する。

【物流】

- ・産業競争力の強化を支援する物流機能の強化
- ・長周期波対策も含む静穏度の確保
- ・臨港交通体系の強化
- ・新規産業導入要請への対応

【交流・環境】

- ・賑わい交流空間の活性化、プレジャーボートの適正な利用

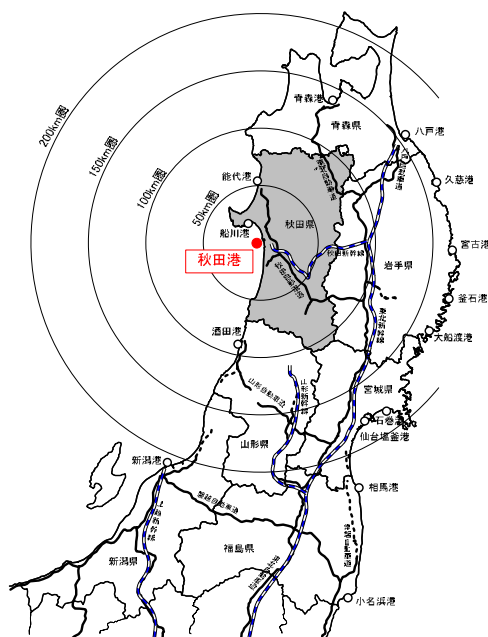
【安全】

- ・震災時の防災拠点、緊急救援物資輸送機能の確保

港湾管理者連絡先：秋田県建設交通部港湾空港課 貝田^{かいだ}、須田^{すだ}

(TEL 018-860-2544 FAX 018-860-3804)

3 秋田港の位置



秋田港位置図

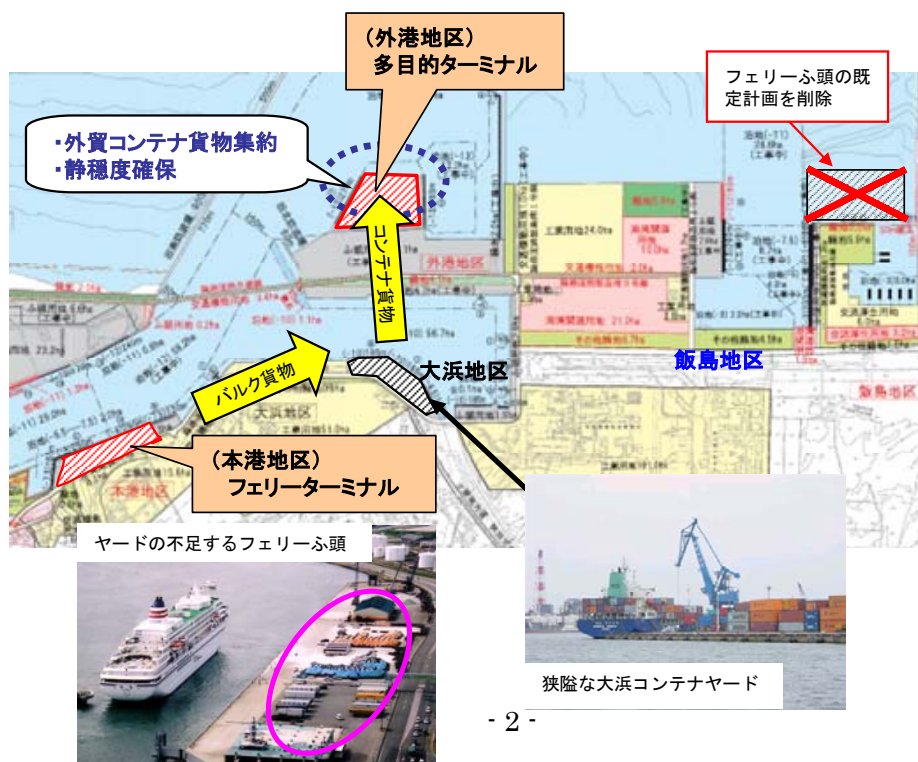


秋田港全景

4 主な計画内容

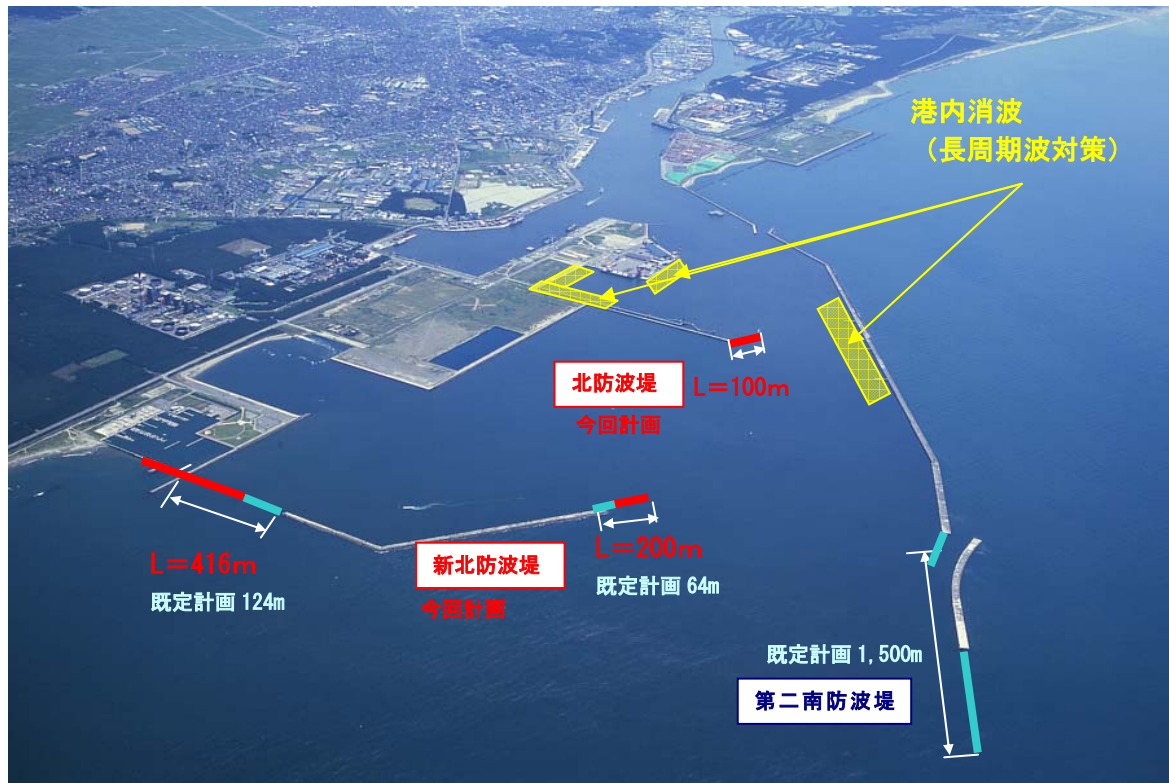
【物流1】産業競争力の強化を支援する物流機能の強化

- ・ 外貿コンテナ貨物取扱は外港地区と大浜地区に分散され、さらに大浜地区はコンテナヤードが狭隘なため、非効率な荷役活動を余儀なくされている。このため、十分なコンテナヤードが確保できる外港地区に外貿コンテナ貨物を集約する。
- ・ 本港地区フェリーターミナルはバルク貨物が混在し狭隘であり、車両の乗降において安全性・利便性に支障を来しているため、バルク貨物のシフト等によりフェリーターミナルを拡張する。



【物流2】長周期波対策も含む静穏度の確保

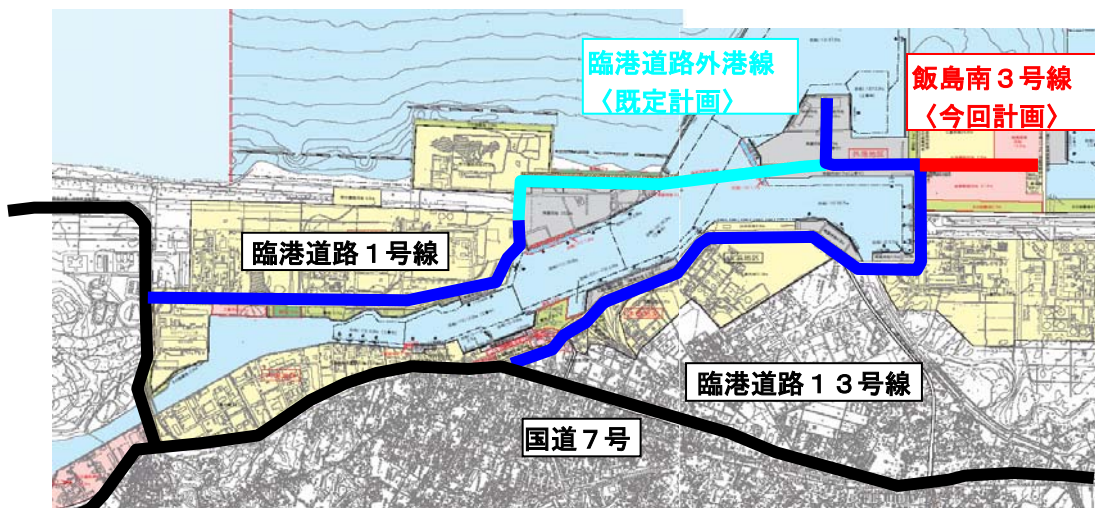
- ・ 外港地区において、冬季波浪により長周期波等が原因の荷役障害が生じているため、早期に安全・安心な荷役環境を提供できるように、風波・長周期波に対する静穏度の確保の観点から外郭施設計画を変更する。



外郭施設配置計画

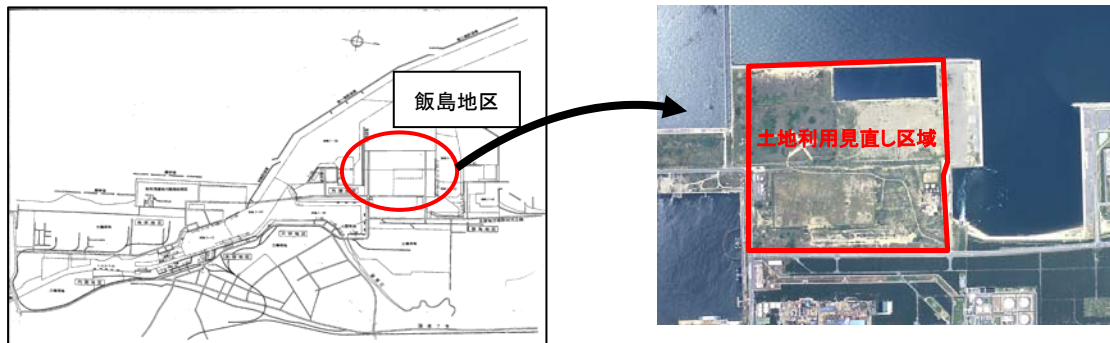
【物流3】臨港交通体系の強化

- ・ 飯島地区内において、物流機能の効率化を図るため飯島地区岸壁と既存臨港道路13号線を結ぶ臨港道路を新たに計画する
- ・ 港内各ふ頭からの貨物輸送には臨港道路1号線、13号線が使われており、何れも国道7号と合流していることから、慢性的に渋滞している。このため、埠頭間の連絡など、貨物輸送の効率化を図るため臨港道路外港線を既定計画通りとする。



【物流４】新規産業導入要請への対応

- ・飯島地区の広大な未利用地の利活用において、将来の発展性の高い産業や秋田の地域特性に合った産業振興が望まれているため、広大な用地を活用した生産拠点・物流拠点の誘致を図る。



既定計画における土地利用計画

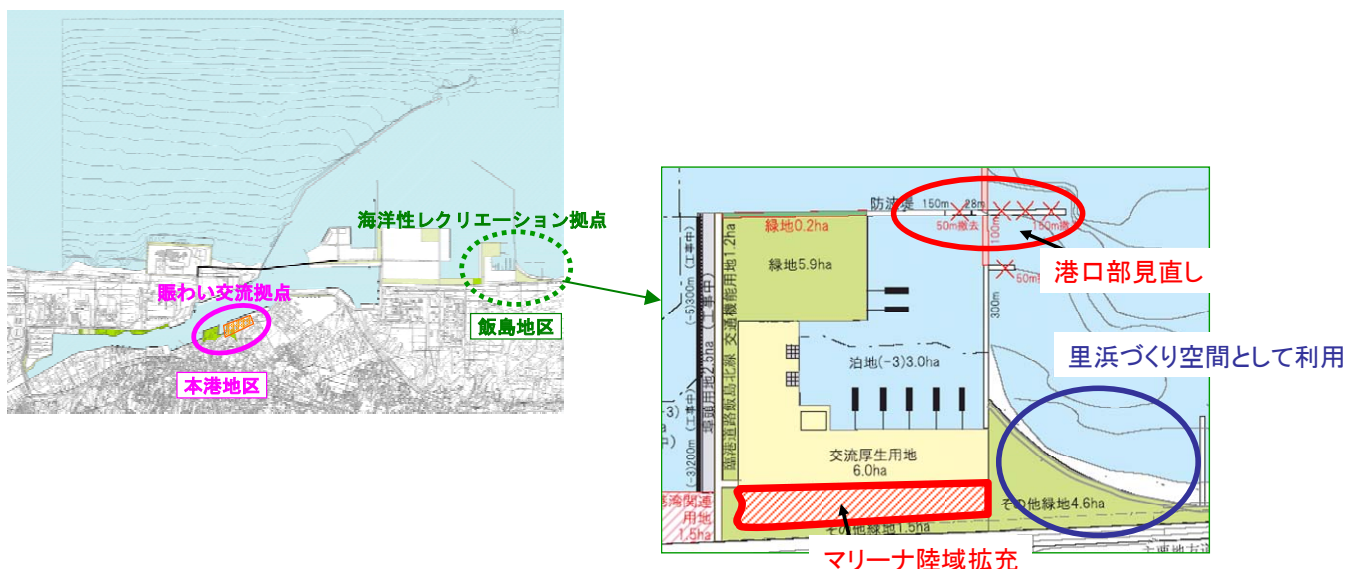
製紙工場・
同関連施設予定地

今回計画で想定される土地利用計画

木材産業、食品加工産業、加工組立型産業、食品流通基地、トラックターミナル、自動車配送拠点、防災緑地

【交流・環境】賑わい交流空間の活性化、プレジャーボートの適正な利用

- ・本港地区において交流拠点にふさわしい空間づくりが求められており、国際、国内観光船及びフェリーを活用しつつ、今や秋田市民はもとより県民に親しまれ、各種イベント等に活用されているセリオン・セリオンリスタ等を基盤とした賑わい交流拠点の形成を図る。
- ・飯島地区北側を、マリーナを中心とした誰もが楽しめる海洋性リクリエーション拠点として位置づけ、マリーナ北側の自然海浜地を自然体験型の里浜づくり空間として活用する。
- ・内港地区において、不法係留及び暫定係留されているプレジャーボートを収容するため、既存マリーナの施設拡充を図る。
- ・マリーナ港口部において漂砂による埋没が生じているため、マリーナ港口部の見直しを行う。



【安全】震災時の防災拠点、緊急救援物資輸送機能の確保

- ・大規模地震発生時の緊急救援物資輸送機能を強化するため、飯島地区岸壁（-11m）を耐震強化岸壁とする。
- ・また、併せて避難地や救援・復旧支援基地など、多目的に利用できる大規模なオープンスペースが求められているため、耐震強化岸壁と一体化した防災緑地を新たに計画する。

